



かみこあにむら
議会だより

みどり

第 156 号

発行 平成28年1月10日

編集 議会広報編集委員会

秋田県上小阿仁村議会

TEL 0186 (77) 2226

FAX 0186 (77) 2227

謹 賀 新 年



今年の干支にちなみ、申年生まれの小學生に将来の夢や今年の目標を語ってもらいました。【最終ページに掲載】

12月定例会

■新年のごあいさつ	P 2
■一般会計補正予算	P 3
■人事案件・陳情・意見書	P 4
■一般質問 4氏が登壇	P 5
■議会の動き	P 9
■所管事務調査報告	P 10
■編集後記	P 12



新年のあいさつ

議長 小林 信



あけましておめでとうございませう。村民の皆様におかれましては、清々しい新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、11月に村内の2名の方が、元気に100歳を迎えられ、長寿の祝福を受けられました。商工会女性部の皆さんが企画した祝う会では、「人口の少ない村で100歳を迎える方が2名もいるというのは珍しく、めでたいこと」という祝辞

がありました。まさに私たち人生の先輩として益々健康で過ごされることを願っております。

また、大変うれしいことに、地域の食材を使った献立で、おいしさや栄養バランスを競う「第10回全国学校給食甲子園」に上小阿仁村学校給食調理場チームが決勝大会に出場し、見事、準優勝に輝きました。

全国から2054の学校給食施設がエントリーし、予選を通過しての北海道・東北地区代表です。栄養教諭の細田智子先生が、大会前の抱負として「応援してくれる子ども達への感謝の思いを胸に、精一杯頑張りたい」という新聞記事に、村も県内のたくさんの方から応援をいただきました。大会を通して、村産食材の美味しさを全国に知って

いただくことができたのではないでしようか。

社会情勢に目を向けると、TPPの大筋合意によるコメの輸入増の課題や肥料メーカーの偽造問題などで、不安を抱える秋田県の農業や農産物ですが、より一層のイメージアップに努めていかなければなりません。私たちも多くの皆さんと一緒に、ふるさと上小阿仁村の存在をPRしていくことが大事な事だと思っております。

また、人口減少の現実が、村にとっての一番の課題であります。昨年、日本創生会議の試算によると、村の20代から30代の女性人口推移が2010年の130人から、2040年には47人になるだろうというデータがありました。

そうした中、県がまとめた昨年26年度の県外からの移住者が11月現在で38世帯75人に達したとありました。秋田県は31年度までに年間移住者を220人とする目標を掲げています。都がこれから抱える負荷を、どう地方が関わって

くか、どのように受け止めるか、「勝負の年」だと考えます。村は今年、県との協働プログラムなど幾つかの計画がありますが、しっかりとした目標と政策と手法をもって、信頼ある行政のもとに進めることが切実な事だと思えます。

これから10年、20年先にもどのようなことが待っているか想像し難いものがありますが、私たちは未来を担う子ども達に、どういう上

小阿仁村を残していくか責任があります。あらゆる課題にも真摯に向き合い、上小阿仁村の発展に向け、議会は努力を重ねてまいります。さらなるご理解、ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

皆様にとりましては、明るく笑顔で過ごせる1年でありますことを心から願っています。



今年もよろしくお願いたします

一般会計補正予算

1160万6千円追加

12月定例会

平成27年第6回定例会は、12月15日から17日までの3日間の会期で開催しました。

一般質問は4人が登壇し、診療所の医療体制、保育園の運営体制、ふるさと納税の対応、未来づくり協働プログラム、総合計画、教育の充実など8項目について問いました。

今定例会では、一般会計補正予算や各特別会計補正予算、条例改正案10件を全会一致で可決。最終日の本会議では人事案件2件が提案され、固定資産評価審査委員会委員について同意、人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについては適任としました。

平成27年度 補正予算

一般会計

高齢者世帯等除雪費助成金 病弱世帯を追加対象

平成27年度一般会計補正予算は、高齢者世帯等除雪費助成など、総額1160万6千円を追加し、補正後の総額は25億1196万8千円にしました。

歳出の主な内容は、次のとおりです。

●バス路線維持費

169万円追加

●高齢者世帯等除雪費助成金

315万9千円追加

平成23年度から高齢者等の冬期間における生活の安全と費用負担の軽減を図るため実施しております。

対象世帯は、満70歳以上の者のみの世帯や、心身に障害をもつ者のみの世帯のほか、家族全員が病弱で除雪が困難な世帯などが対象となります。

助成費は対象除雪費の2分の1で、1世帯あたり3万円を限度とし助成します。

○常備消防委託料

579万6千円減額

○小中学校防犯カメラ設置工事

92万9千円追加

○教育振興費教材備品

108万9千円追加

条例議案

条例議案4件は、原案どおり可決しました。

○上小阿仁村行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報提供に関する条例の制定について

- 上小阿仁村村税条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例について
- 上小阿仁村営住宅設置条例の一部を改正する条例について
- 上小阿仁村営住宅管理条例の一部を改正する条例について



総務産業常任委員長報告

固定資産評価審査委員会委員に石上 稔氏 人権擁護委員に成田利幸氏

人事案件

2件

任期満了に伴う固定資産評価審査委員会委員の選任、人権擁護委員の推薦については、議長を除く7人で無記名投票を行った結果、全員の賛成で同意、適任としました。

● 固定資産評価審査委員会委員の選任【同意】



石上 稔
(昭和30年5月3日生)

● 人権擁護委員の推薦【適任】



成田 利幸
(昭和26年4月11日生)

陳情 4件

12月定例会では、4件の陳情を審査しました。

採 択

● 必要な医療・介護がうけられ、安心して暮らせる年金制度など「社会保障の充実を国に求める」意見書提出の陳情
提出者
秋田県社会保障推進協議会
会長 渡辺 淳

● 「介護従事者の勤務環境改善及び処遇改善の実現」の意見書を求める陳情
提出者
秋田県医療労働組合連合会
執行委員長 泉谷みどり

● TPP交渉に関する陳情
提出者
農民運動秋田県連合会
委員長 鈴木万喜夫

不 採 択

● 憲法に違反する安全保障関連法案を廃案とするよう関係機関への意見書提出を求める陳情
提出者
秋田県平和委員会
代表理事 川野辺英昭

意見書

3件送付

各陳情の採択に伴う意見書3件を議員発議し、本会議で可決。関係機関に意見書を送付しました。

● 必要な医療・介護がうけられ、安心して暮らせる年金制度など「社会保障

の充実を国に求める」意見書

【意見書提出先】
内閣総理大臣
厚生労働大臣

● 「介護従事者の勤務環境改善及び処遇改善の実現」の意見書

【意見書提出先】
内閣総理大臣
厚生労働大臣
財務大臣
秋田県知事

● TPP交渉に関する意見書

【意見書提出先】
衆議院議長
参議院議長



質問

地域の現状を踏まえた 医療体制の構築へ

必要に応じて

往診診療を検討する



【伊藤敏夫議員】

村長

医療体制の構築について

伊藤議員 高齢化率が50%を超えている現状で、老老介護が増え、救急車を呼んでも付き添いもできない世帯が多くなっている。全ての往診ということではないが、地域医療として診療所医師に往診対応をしてもらえないか。

村長 診療所では、地

域住民の健康を守る医療機

関として3人の医師が内科・歯科・泌尿器科の診察にあたっており、患者送迎車や移送サービス、外出支援サービス、家族送迎などで通院している状況である。今後、在宅の重度要介護者の方については、ケアマネージャー、ご家族と協議し、必要に応じて往診診療を行うよう検討したい。

伊藤議員 診療所の送迎バスで通院しているが、歩くのも大変、停留所まで来るだけでも大変だと聞いているが、対応できないものか。

村長 診察後の送迎については、今後、可能な限りバスの回れるところであれば、家の近くまで乗り入れ、対応していきたい。



保育園の受け入れ体制について

伊藤議員 先般、0歳児を持つ親が入所希望をしたところ、職員不足により断ら

れたという事実があったようだが、入所できる方法はなかったのか。

村長 保育園児の中途入所については、申込みがあった時点で受け入れが可能か検討し、入所の可否を決定しているが、1名の保育士で担当している状況であったため、今すぐの受け入れについては難しいということを伝えた。臨時職員の異動や募集で保育士の確保に努めたが、増員ができない状況である。今後は、途中入所にも対応できる職員体制で運営していきたい。

ふるさと納税の対応

伊藤議員 ふるさと納税された家族から、どうも誠意がなさすぎるという声が聞かれる。どのような手順でお礼と返礼品等を差し上げているのか。

村長 今年度からは、納付案内状、お礼状、返礼品、納税証明書、使途報告書の順で送付している。返礼品については、かみこあに観光物産株式会社と「い樹い樹かみこあ」に応援基金寄附金の特産品等発注に係る協定書」を締結し、新米あきたこまちをはじめ、村の特産品を贈っている。

伊藤議員 期間限定の返礼品だとか、写真付きのパンフレットを活用したらどうか。

村長 他の市町村の対応についても勉強させていたでいてるので、今後とも色々な意見をいただき進めていきたい。

4月から10月までの1日平均患者数は、内科外来が25.1人、歯科が11.5人、泌尿器科が19.2人

伊藤議員 子供を持つ若い世帯が、そういう問題で、住んでいるメリットも無いということが出ていかないよう、子供は村の財産ということを念頭に対応してほしい。

村長 早急に何らかの形で待機者がいなくなるような対応をとり

質問

集住型宿泊交流拠点施設

地域活性化に必要なのか

村長



【大城戸ツヤ子議員】

職員の人事異動について

大城戸議員 新体制になつて6か月余り、職員の人事異動は7月17日付けに続いて11月1日付けと2回実施された。

①人材の育成や適正な配置とは。

②臨時職員の対応への不備から生じた保育園の待機児童について。

村長 ①人材の育成につ

住民が生き生きと暮らせる地域コミュニティの維持・強化を図る

いては、主に秋田県町村会が実施する各階層の職員研修を受講させている。原則として人事異動は、状況に応じて対応しているが、事務の執行上、四半期ごとに行うのが通例と考える。今回は、3月に退職者が多いことから、住民サービスの低下を招かないよう早期に対応した。

②待機児童解消のため、11月の人事異動で臨時職員の異動を発令したが、一身上の都合で退職した。急ぎよ保育士等の臨時職員を募集しているが応募がなく、現在、0歳児1名と1歳児1名が待機児童となっている。保育士等が確保でき次第、入所させたい。

大城戸議員 保育園で働く

職員は、一生懸命園児たちと向き合っている。他では建物がなく入所できないが、村は建物があっても、働いてくれる人がいないので待機児童が出ているのはおかしくないか。子供は宝と言うが、宝扱いされていないように思える。職員は働く現場が良く理解されていないのでは。

村長 保育園の配置基準、0歳児3名に対し保育士1名というのは酷な話だと思う。今後については、少し別の方法も検討し、保護者の方々にご迷惑とならないよう努めていきたい。

未来づくり協働プログラムについて

大城戸議員 人口減少の中にあつて、村には立派な箱物が建っている。地域活性化策として「集住型宿泊交流拠点施設」は必要か。

村長 人口減少と少子高齢化が同時進行する当村において、地域コミュニティの低下にとどまらず、自助や共助が限界に達し、維持継続が危ぶまれる地区もあることから、将来にわたり安心かつ活力ある地域社会を構築することが喫緊の課題と考える。集住型宿泊交流施設には、若い人向けの住宅部分と、冬には高齢者が住み、春から秋には来村者等の宿泊、そして放課後児童クラブ等を想定している。若い人と高齢者の同居により、見守りや支え合いも実



保育発表会(12月12日)

現し易くなると考えている。大城戸議員 若者と高齢者の生活リズムが違うのでは。高齢者を支える体制の強化であれば、有償ボランティアを立ち上げて各団体との連携を図るべき。また、宿泊交流施設の維持管理費が全く示されていない。現に2つの施設維持管理費が年間約2500万円である。真の交流を求めるには箱物を用意して迎えるのではなく、行政や住民が人を呼ぶ環境づくりをしていくことが不可欠。むしろ、子育て世代の未来づくりが大切ではないか。

村長 村の課題が何か、その課題を解決するために県と協働で取り組むのが目的である。高齢化に向け、少しでも歯止めをかけるため、協働で支え合い、協調姿勢で日本のモデル村として先進的に取り組んでいきたい。具体的な内容については、これから検討していくことになるが、意見・提言をいただきたい。

質問

TPP政策 前向きなのは一部の農家 村の具体策は

村長

体験型農業への転換等

観光と一体的な地域づくりをめざす



【齊藤鉄子議員】

TPP対策について

齊藤議員 ①10月5日に大

筋合意となり、行政報告で将来の不安を払拭する施策に取り組みとしているが、具体的にどのような施策を考えているのか。

②村独自のブランド米を作り、売り込む考えはないか。

村長 ①国では、農林水産業の成長産業を一層進めるために必要な戦略、さら

に、海外展開・事業拡大や生産性向上を一層進めるために必要となる政策を、平成28年秋を用途に具体的な内容を詰めるとされていることから、経営感覚に優れた担い手の育成や、地域の強みを活かした技術革新を起す支援策による国際競争力を高める政策が中心となる見込みである。村としても農産物を対象とした訪日促進、輸出、体験型農業への転換等、観光と一体的な地域づくりを目指したいと考えている。

②村独自のブランド米については、元気な中山間事業にある6次化事業に、農家の皆さんが積極的に取り組んでいただきたい。特に、米だけの販売は厳しいため、

村のこだわりと地域資源を活用した認定基準により栽培し、品質の保証が必要不可欠。加工品の開発も行う必要があることから、農家の法人化と6次化による農産物のブランド化に取り組み、「上小阿仁村産あきたこまち」等のネームバリューを確保できる施策に取り組みたい。

齊藤議員 観光と一体となった農業、私自身も賛成である。村にあった生きる道、田舎の良さを活かした心の安まる村づくりを、米だけではなく付加価値をつけて高く売れる農産物の開発に取り組みみては。

村長 全国的には6次化で成功している例もあるので、農産物の活用を図りたい。

現在、道の駅に特産品開発も委託しているもので、そういうものも含めて6次化につなげていきたい。

教育の充実について

齊藤議員 ①学校教育は充実していると思うが、教育水準の引き上げ、子供達が自信を持って生活できる環境づくりのため、村営塾の開設の考えはないか。

②中学生の海外研修、台湾との交流で、青年だけでなく、子供達にも機会を設けては。

教育長 ①学校教育は昨今、学校のみならず、自治体や地域が関わっていく傾向にある。本校は、少人数であり、先生方との関わりも深く、大変充実していると認識しているが、校内外から支援を得て教えてもらうことは

多少の緊張感も生まれ、新鮮さも加わり意義があると思う。教科や時期、方法などを学校側の意向を伺いながら検討したい。

②台湾・萬巒郷への研修については、北林孝雄氏の意向により、一般と青年とで実施されている。去る10月19日、萬巒郷訪村団が来られた際、林郷長から「今後は学生との交流を実施したい」という意向もあり、北林氏と相談し対応したい。



萬巒郷について質問する児童・生徒たち

質問

「未来づくり」「総合戦略」「過疎計画」
周知と意見集約方法は

村長

行政懇談会を開催

3月定例会で判断を仰ぐ



【武石辰久議員】

武石議員 総事業費約6億

円の未来づくり協働プログラムをはじめ、この3つの計画は、将来に希望の持つる自立村・上小阿仁村をつくる村民及び地域住民にとって大変重要な計画であるが、断片的にしか分らないという声もある。10月に行われた住民意識調査と転出者意向調査の集約結果は、まだ公表されていないが、どうい

のか。小さな村だからこそ村民みんなのものにしていかなければならぬと思うが、村民の意見、要望を取り入れるべく、村長の策定にあたっての方針、考え、各計画案の周知と意見集約方法、計画決定と秋田県等への提出スケジュールについて伺いたい。

村長 誠実そして堅実な行政運営、生活できる村、生活しやすい村の実現に向けて、柱となる上小阿仁村過疎地域自立促進計画、上小阿仁村総合戦略、秋田県市町村未来づくり協働プログラムを策定中である。これまで3回にわたり、有識者や村民から委員を委嘱し、提案などを求めている。また、集落に対しては行政懇

談会を開催しながら計画の要旨について説明しているところであり、1月25日までは終了させたい。過疎計画と総合戦略については、素案が出来次第、議会に示すとともに、2月にパブリックコメントを求めながら、最終計画を策定したい。過疎計画については、最終的には3月定例会で判断を仰ぎたい。秋田県市町村未来づくり協働プログラムについては、多様な交流の促進による地域力創造プロジェクト基本構想をもとに協議を進め、平成27年9月29日に「第1回秋田県市町村未来づくり協働プログラム上小阿仁村プロジェクトチーム会議」を秋田県で開催している。今後も県との協議で

進めることになるが、県からは事務レベルの話として2月中旬に県議会へ総括説明、3月に知事へのプレゼンを実施する予定である。

いるが、産業振興、雇用創出、少子化対策、移住定住対策、福祉健康施策等、今後、上小阿仁村がモデル村になれるよう施策を展開していく必要がある。そういう意味で、今後の住民の声を、各施策に対して反映させていくべき。

武石議員 計画策定の期間が短い点は否めないと思う。高齢化が進む村にとって、数多くの課題を抱えて



総合戦略会議部会分科会(12月9日)

「保育園」「杉風荘」「診療所」の将来構想を提案

旧上小阿仁電機敷地 購入に待った!!

第3回議員全員協議会

●平成27年11月30日

議会の動き

過疎地域自立促進計画

議員 今日の資料は素案であるが、今後の流れは。

答弁 地方創生も含め、年内に集落から意見を聴取したいが、1月にずれ込むと思う。

議員 いつ議会に説明するのか。

答弁 最終的には3月定例会に提案したい。

上小阿仁村「まち・ひと・しごと創生」総合戦略

議員 実際に従事している人、農業に精通している人を、部会委員の中に構成する必要がありますのでは。観光分野も必要では。

答弁 早急に人選したい。

旧上小阿仁電機敷地購入と未来づくり協働プログラム

説明 前回の協議では、集住型宿泊施設の建設を、給食センターと米内沢タクシー営業所の跡地に計画していたが、旧上小阿仁電機の敷地に建設する案が浮上し、5686㎡の土地を取得したい。この2つの案で考えているが、土地の取得については、将来、診療所・杉風荘・保育所が老朽化した場合、1箇所を集約したいということでも提案した。

議員 8月25日に全協で説明を受け、その後、3か月経過しても何の報告もない。住民の意見を聞いたのか、土地を買ってまで建てる必要があるのか。

答弁 プロジェクトについては、村の課題と解決策など県とも協議している。地域センターの活用も検討したが、耐震等の制約があり、新設と同等の事業量であった。この宿泊施設の目的は、高齢化対策として冬期間の共同生活によって孤立化、除雪問題を解消し、研修生や起業する方達に1階に居住してもらい、少子化対策では2階のアパート形式で対応し、交流を通じた助け合いが生まれるという構想で計画。一端建てると移動ができないため、再考して提案し、議会と相談したいということである。

議員 仮に土地を購入したとして、その土地だけでは

は足りないのでは。

答弁 保育所や診療所となると、その他の用地買収も必要になると思う。

議員 土地の購入費、必要な面積も計算していない。とりあえず補助対象になるから買いたいでは、賛成できない。どこで浮上したのか。保育園の老朽化など、建設した意見が近々に、庁舎内からでも出た意見なのか。

答弁 過疎計画を進めていく上で、施設の維持補修は毎回出る。可能だとすれば、今から考えて対応したいということでも提案している。

議員 今から考えることも重要だが、建てる場所とか、集約させるといふのは、1回や2回の会議で決まるものではない。時期尚早では。

答弁 今の杉風荘も10年は維持したいが、雇用対策として1000人規模の施設も増設(増床)し、高齢化の対応を考えたい。

議員 本来、これまでの村づくりであれば、保育園の

体制、老朽化しているならば建て替えるか修繕か、診療所も30年くらい経つが、

村の医療はどうあるべきか、審議会などで1年くらい揉んで、そういう議論にたつて住民の意見を吸い上げていくべきではないか。手順がおかしいのではないか。

答弁 これから財政計画を立てて、年次計画で検討していきたい。

議員 将来的な構想については、村にとって必要なことではあるが、事業のレイアウト、経費的試算がなく、雲を掴むような話である。今回は賛同できない。

答弁 議会の意見を無視するということではないので、今回相談いただいた。

議員 いずれ、議員の多数は、土地の購入に関して反対ということなので、集住型宿泊施設は当初の場所でも、また県との協働プログラムなので、県議会の了承も得なければならぬ事案なので、間違いないよう進めてもらいたい。

先進地を見る・聞く・学ぶ

所管事務調査報告

総務産業常任委員会

期 日 平成27年11月16日・17日

研修先 農事組合法人美郷サンファーム・東成瀬村

視察内容 6次産業化の取り組み・通年議会・学校教育

6次産業化への取り組み キーワードは女性である

仙北郡美郷町(旧仙南村)の農事組合法人・美郷サンファーム代表・深沢義一さんから、6次産業化へ向けた取り組みについて、お話を伺いました。

当初、平成8年にライスセンターを整備し、基盤整備が進んだことにより規模を拡大。平成16年に仲間3人で、(農)美郷サンファームを設立しております。米を主体に大豆、メロン、アスパラ、ミニトマトなどの野菜の生産と、自ら加工した切り餅や野菜等の販売

に加え、平成24年に農家民宿を併設した農家レストラン「米(マイ)サラダハウス」をオープン。米粉を使用したパンやアイス、菓子類などの商品開発、消費者へ付加価値の高い商品の製造・販売を行い、雇用創出にも取り組んでいました。

法人を立ち上げた時からソバを食べさせたいという思いがあり、農家レストランを始めるきっかけは、病院で管理栄養士をやっていた娘の存在が大きかったと話す深沢さん。「男性は物作りに向かない。女性の活躍の場を作ることを、臆せず前へ一歩が踏み出すことが大

事である」と話されています。

また、自然を売り込むということは重要だとしながらも、「グリーンツーリズムを進める上で、皆さんから見れば開けていいな、と思うかも知れないが、逆に山があればいいと思う。中山間の地域特性を活用し、農業プラス林業体験の組み合わせもいいのでは」などとアドバイスを受けました。



代表の深沢義一さん
(美郷町議会副議長)

通年議会の導入 議会改革への取り組み を学ぶ

「通年議会」とは、定例会の開催を年1回とし、会期を1年間に長期化する議会運営のことで、その間、休会と再開を繰り返します。

従来の議会では、閉会中の議会活動が制約されますが、通年議会制を導入することにより、本会議がいつ

でも再開できるなど、議会が主体性、機動性を高めることができ、行政課題や災害時の緊急対応に素早く対応できるメリットがあります。

一方、行政的には事務量が増えることや、地方自治法に定める首長の専決処分が限りなく無くなるという課題もあり、導入については議会と首長との合意形成が不可欠です。

このたびの視察では、平成26年1月から、県内市町村で初めて通年議会制を導入した東成瀬村議会の議会改革の取り組みについてお話を伺ってききました。



農家レストラン「米(マイ)サラダハウス前」

共に学び合う教育

東成瀬村の学校教育について、鶴飼孝教育長より「共に学び合う教育」と題して講話をいただきました。

東成瀬村には、今年も400人の視察者があり、韓国からも訪れたということです。

鶴飼教育長の講話の要旨をご紹介します。



東成瀬村議会の富田義行議長より導入の経緯について伺う

村の教育を進めるにあたって、特に学校教育では「共に学び合う教育」を大事にしている。先生方に2つのことをお願いしている。1つは、子供というのは間違えるものだ、間違っている。1つは、子供というのはいいということである。2つ目は、子供が学校に来るのは分からないから来るということ。分からない者同士、間違える者同士が集まるのだから、大事に育てなければならぬ。

お爺ちゃん、お婆ちゃん世代と暮らす3世代の子供達が約75%、小学校のPTAだと120%以上来てくれる。教育には非常に熱心な村である。

小学校は平成13年、中学校は昭和52年に統合、地元教師はいないが、先生方には腰掛けのような気分ではなく、骨を埋める気持ちで頑張ってもらいたい。

現在、学校教育で力を入れていくことは、子供達が自分の考えを持って、堂々と話をし、他人の意見から

自分を振り返って学ぶことである。教え込む教育では力が出ない。間違っても堂々と発表することが大事だと思ふ。やり方として、同じ回答でも3人くらいに黒板の前で話させる。

人の機微きびに触れることが大切であるが、生まれてから中学校を卒業するまで、学級編成もなく同じ顔ぶれ、いいことではある一方、デメリットもある。村の中だけではいいが、子供達にはあらゆる所に出て、頑張ってもらわなくてはならない。自分の考えと違う人、価値観の違う人との異質性を理解させなければ、本物の人にはならないと思ふ。そこで考えたのが小中連携教育である。小学校と中学校の子供達と一緒に活動させることよって、中1ギャップ(注1)や小1プロブレム(注2)は発生しない。

子供達の可能性を最大限伸ばすため、中学生を対象に8月の大会終了後、役場の中で学習塾を開いている。

また、校内には小学校・中学校の子供達に対し、1つ上の問題を廊下に貼り、学習意欲を持たせている。

医者や弁護士と話す機会があり、「先生方はうらやましい。一流大学を出て、司法試験に受かって、社会的評価もいただいて」と話したら怒られたことがあった。「我々は悩みを抱える民事・刑事事件を解決し、初めてスタートラインに立てる。貴方たち教師は、未来と希望ばかりの子供達と最初からスタートラインにいる」。医者にも「病人と関わって、治して初めて元に戻る」と言われた。

私は、新任教職員を前に毎年4月2日の午後4時に言っている。子供達が2合目にいたら3合目に、自信と誇り、安心感と信頼感、個に応じた指導をお願いしている。



東成瀬村の教育について講話する鶴飼教育長

※注1

小学生の頃にはないが、先輩・後輩という関係が出現し、異なる小学校から集まった人間関係、学習の難易度が原因とされる。

※注2

小学校に入学したばかりの1年生が、「集団行動がとれない」「授業中に座っていない」「先生の話を聞かない」など、学校生活になじめない状態が続くこと。

今後の定例会予定表

区分	会議名	開催年月日	曜日	会 期 (休会を除く日数)
3月定例会	議会運営委員会	平成28年2月23日	火	
	開 会	平成28年3月1日	火	11日 (9日)
	閉 会	平成28年3月11日	金	

申年生まれ

「将来の夢」「今年目標」

① 私は、将来、子どもたちに信頼される先生になりたい。

⑥ バスケットで下級生の人たちをひっぱっていきたいです。

② 中学生としての自覚をもち何事にも真面目に取り組みたい。

⑦ 将来の夢は消防士になって人を助けることです。

③ 将来は、動物園か水族館の飼育員になりたいです。

⑧ 習字をたくさん練習して、段をあげていきたいです。

④ 多くの将来の夢はシエフになりレストランを開くことです。

⑨ 私は、保育士になるために、みんなに親切にしたいです。

⑤ 私は将来、保育士になるためにいろいろな人に優しくします。



友生園のイルミネーション

議会を傍聴してみませんか

次回の定例会は3月1日開会予定です。12月定例会本会議の傍聴者は15人でした。

どなたでも傍聴することができます。



編集後記

新しい年が明け、村は平成17年に5町村合併協議会から離脱し、単独立村を宣言してから早10年が過ぎ、新たな目標に向け、住み良い村づくりを目ざして、村政は、村民の考えを十分に取り入れ、議会と一丸となり、進めてまいります。

議会広報は、村民と議会を結ぶ唯一のものと考えておりますので、今後も村民の皆様にご覧いただけるよう広報活動に専念してまいります。

(伊藤〈秀〉 記)

編集委員会

委員長 北林 義高
副委員長 大城戸ツヤ子
委員 伊藤 秀明
" 伊藤 敏夫
" 武石 辰久